

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	貝田理	地域企画課	観光振興班	副主幹 備前俊吾	0187-63-5226	滞在・体験型観光売り込み事業	仙北地域の入込客数・宿泊者数は震災以前の水準を回復しつつあるものの依然厳しい状況であることから、仙台・盛岡圏をメインターゲットとした売り込みを図る必要がある。	772,670	直営	仙台圏・盛岡圏へ滞在・体験型観光情報の売り込みを実施した。 ・メディア訪問数 延24社 ・テレビロケ招聘4件 ・広告出稿5件など	県	県外旅行代理店、テレビ局	平成26年4月1日	売り込みの結果、TV局番組招聘を4件実施することが出来た。これに加え、雑誌等への広告を掲載したり、webを利用した情報発信等を実施しており、特に仙台圏へのPR効果は大きかった。	TV放映はインパクトがあり広告効果が大きく、費用対効果も高いことから今後も継続していく。旅行誌・タウン誌等への広告掲載についても時期・内容・費用を精査しながら継続していく。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	貝田理	地域企画課	観光振興班	副主幹 備前俊吾	0187-63-5226	「こまち路」ドライブマップ作成事業	自家用車で来訪する観光客の利便性を高め、リピーターを増加させるためのツールとして作成する。	219,539	直営	大曲仙北刊行県域推進協議会と協働し季節毎にドライブマップを作成し、県内・隣接県の道の駅、県内主要観光施設、高速道路、フェリーターミナル等で配布した。 ・振興局担当 春編、秋編 ・作成数 各季27,000部	県	観光関係者、観光客	平成26年4月1日	道路情報のみならず、季節毎のイベントや食に関するコアな情報も盛り込まれていることから利用者・配布箇所からは好評である。	自家用車利用者から好評であり、今後も継続の必要がある。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	貝田理	地域企画課	観光振興班	副主幹 備前俊吾	0187-63-5226	“田沢湖・角館発”滞在・体験型旅行商品造成支援事業	“食・農・観”連携や広域観光等の特色を取り入れた“田沢湖・角館発”滞在・体験型旅行商品の造成や販売を支援することにより、県内周辺地域への観光流動の促進を図る。	1,205,806	負担金	仙北市TICが実施する着地型滞在・体験型旅行商品(名称:「あきたTABIYORI」)の造成、旅行代理店への売り込み等の事業を支援した。 ・TABIYORI販売実績 H26 736人 3,710千円	仙北市TIC	県外旅行代理店、観光関係者、観光客	平成26年4月1日	旅行商品の販売実績は毎年増加しており、また商品化の過程で観光素材としての磨き上げや地元関係者の意識向上にも繋がっている。	仙北市TICは平成26年度で閉鎖された。5年間の総括としては「仙北市を起点とした県内周辺地域への観光客流動を計る目的は微力ながら貢献された」。今後は仙北市TICの機能の一部を受け継ぐ予定の田沢湖・角館観光連盟と連携して観光流動の促進を図っていく。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	貝田理	地域企画課	観光振興班	副主幹 備前俊吾	0187-63-5226	県外物産展開催事業	地域産品の販路拡大を図るため製造・販売事業者の支援を行い、併せて観光情報の発信を図るため、仙北地域が一体となった事業展開が必要である。	1,065,065	直営	県南3地域振興局の協働によるスケールメリットを生かした物産展を都市圏で開催した。 ・仙台市 4/19～20、10/18～19 ・東京 12/24～28、3/11～13 等	県	仙台圏・首都圏在住者	平成26年4月1日	仙台、東京とも多数の来場があり、リピーターも多く売上げも好調でイベントが定着してきている。当日購入者からは取り寄せの可否の問合せも多く、販路拡大に繋がると参加業者からも好評であった。	県南三局合同でのスケールメリットを活かした事業とした結果、参加業者が多く商品構成にも広がりが出ており今後も継続して実施する。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
総務企画部	貝田理	地域企画課	観光振興班	副主幹 備前俊吾	0187-63-5226	広域周遊観光推進事業	仙北地域の入込客数・宿泊者数は震災以前の水準に回復しつつあるものの依然厳しい状況であることから、隣接する地域を訪れた観光客を管内に誘引するための事業展開が必要である。	615,120	直営、負担金	隣接振興局や県境で接する地域と連携しPRが手薄になる春及び冬にキャンペーンを展開した。 (秋)・内容 スタンプラリー ・実施主体 十和田八幡平周辺地域の観光観光関係機関 ・ラリー参加者数 899人 (冬)・内容 宿泊券プレゼント、クーポンプレゼント他 ・実施主体 雫石・田沢湖・角館地域誘客促進事業実行委員会 ・応募総数 3,259通	県、実行委員会	観光客	平成26年4月1日	紅葉スタンプラリーは多数の応募がありアンケート結果も好評であった。仙北・雫石冬季誘客キャンペーンは広告を宮城・岩手・秋田の新聞に掲載したことによる広告効果のほかに応募も多数あり反響が大きかった。	入込客数の増加のためには仙台圏・首都圏へのプロモーションも必要だが、気軽な来訪が期待できる隣接圏域へのプロモーションも重要であり、今後も継続していく。
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									
農林部	工藤哲人	農業振興普及課	産地・普及班	主幹 高橋一志	0187-63-6110	高冷地野菜等生産団地プロジェクト事業	仙北市は、高齢化、後継者不足等により複合部門の生産振興が進んでおらず、準高冷地が多いという立地条件を活かした園芸振興を図り、実証展示ほの設置、マーケティングによる付加価値の高い新規園芸産地の形成を目指す。	541,760	直営	JA及び仙北市と連携し、夏場の園芸振興を図るための実証展示ほの設置と市場調査を実施した。 ・作目 白菜(30a)、大根(1ha) ・調査先 都内青果市場、業務用野菜加工会社	県	仙北市内農家、JA、卸関係者等	平成26年4月1日	高冷地、準高冷地、平場とリレー栽培実証ができたことにより、農家を取り組むための準備ができ、業務筋向けの白菜の長期出荷体制の構築ができた。	取組農家への呼びかけと輸送体系の構築が必要
						平成26年4月1日～平成27年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	工藤哲人	農業振興 普及課	担い手・経 営班	主幹 瀬田川守	0187-63- 6110	仙北産「ブルーベリー」メ ジャー化推進事業	近年、ブルーベリーの作 付けが増え、JA等の産地 化に向けた体制づくりも 進みつつあることから、今 後の本格生産を見越し、 産地化のための生産・販 売の基礎固めを支援す る。	485,659	直営	全国に通用する産地形成に 向け技術及び販売体制確立 への支援などを行った。 ・4/11講習会(30名)、6/27先 進地視察(38名)、試食宣伝 会(秋田市イオン系3店舗、 延べ6名参加) ・栽培暦作成による生産技 術統一	県	農家・農業 法人	平成26年4月1日	ブルーベリー産地化に向 けて、生産技術が統一さ れた。	ブルーベリーについては、統 一された生産技術の普及と、 生産量増加を踏まえた販売 強化が必要である。また、管 内にはブルーベリーととも に、種なし大粒ぶどうの産地 化の動きがあることから、新し い果樹産地確立に向けた支 援が必要である。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
農林部	工藤哲人	森づくり推 進課	林業振興 班	主幹 加藤幸雄	0187-63- 6108	オール秋田でおいしいき のづくりへの挑戦事業	秋田県産の米糠や酒粕、 規格外大豆等を用い、生 産コストを抑えながら安 全・安心かつおいしいき のこ栽培を実現する菌床 の栄養剤を開発する。	185,543	直営	大曲農高、県立大学、管内 企業等と分担しシイタケ栽培 に適した栄養剤の共同研究 を実施した。 ・大曲農業高校の研究への 支援 ・研究成果の管内農・林家 への周知 等	県	高校生等	平成26年4月1日	生産コストの低減や安心・ 安全なきのこ生産の目途 がたつてきたことで、生産 者及び消費者から実用化 技術の確立に対する要望 が高まった。	引き続き、ヒラタケ、シイタケ、エリ キ、マツタケ、フナシジメにつ いて、栽培試験を行う。栽培期 間の短縮、増量、グルタミン 酸等旨味成分の増強を図 る。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	企画振興 班	副主幹 小林一見	0187-63- 5114	技能五輪メダリスト実演 会開催事業	高度で優れた技能を直接 見て学ぶことにより「もの づくり」に対する意欲を喚 起し、産業人材の育成を 図る。	295,512	直営	プライス盤のメダリストを愛 知から招き、県南地域の工 業系高校生等を対象に実施 した。 ・期日 1/29 ・会場 大曲技術専門校 ・参加者数 150名	県	県南の工 業系高 校生、大曲 技術専門 校訓練生	平成26年4月1日	アンケートでは一流の技 に対する驚きと羨望の感 想が多かったほか、仕事 に対する姿勢や社会人 としての心構えなどに感心 する声も多かった。将来 の進路に思いを強めた意 見も多い。	参加した生徒からの評価が 高いほか、県南地域全体を 対象としており、継続する。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	企画振興 班	副主幹 小林一見	0187-63- 5114	就職面接会開催事業	地域を担う人材の確保と 求職者の就労促進を図る ため、企業と求職者との マッチングの場を提供す る。	80,000	直営	管内市町・職安と連携し、新 卒高卒者対象の面接会を開 催した。 ・期日 10/16 ・会場 大仙市内ホテル ・参加企業数 35社 ・参加高校生数 37名	県、市町、ハ ローワーク	新規高卒 者	平成26年4月1日	就職を希望する新規高卒 者の就職率100%を達成 するために取り組んでい るほか、企業側にとっても 多くの新卒者・求職者と面 談できる機会として評価 されている。	高校生・求職者の参加が減 少傾向にあることから、情勢 に応じ企業説明会に模様替 えすることとする。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	企画振興 班	副主幹 小林一見	0187-63- 5114	おらほの企業見学会開催 事業	管内の小中学生や保護 者などを対象に、管内の 優れた企業・工場を見学 することにより地元企業 への理解向上と地元定着 の促進を図る。	33,500	直営	振興局職員が引率し大仙市 内小学生が企業2社を見学 した。 ・期日 1/9 ・参加者数 22名(保護者8 名) ・見学企業 サン食品、アネ スト岩田	県	小学生	平成26年4月1日	普段目にすることができ ない企業の業務内容に触 れることができ、地元企業 への理解が図られた。	小中学生が参加しやすい時 期の開催に留意し、子どもの 将来的な地元定着を目指し 引き続き優れた企業・工場 の紹介に努める。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	企画振興 班	副主幹 小林一見	0187-63- 5114	県南地域「ものづくり」人 材育成連絡協議会開催 事業	県南地区の産業、教育及 び行政の関係者が、地域 におけるものづくり人材の 育成方策について協議す る。	0	直営	情勢に応じ随時情報交換を 行った。また、自動車産業 関連企業の見学については、 管内企業への周知徹底に努 めた。	県	県南地区 の製造業 者、県南 の工業系 高校生	平成26年4月1日	会議の場では出された意見 は関連事業実施にあたり 参考にしてはいるが、企業 側の反応が薄いほか、人 材育成への貢献度に関し ては明らかでない。	意見交換がこれまで低調で あったことから、必要に応じ 開催することとする。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
福祉環境 部	豊島優人	環境指導 課	環境・食品 衛生班	主幹 藤田治	0187-63- 3694	食品衛生推進事業	管内では平成24年度に 学校給食を含め4件の食 中毒が発生し323名もの 患者が出るなど食中毒予 防策としての衛生管理意 識の向上が求められている。	31,500	直営	手指や調理機器の汚れを可 視化する機器を開発者に貸 し出した。 ・貸出先 学校給食セン ター、山の手ホテル(国文祭 前)、美郷フェスタ等	県	食品関連 業者等	平成26年4月1日	給食センターにおいては、 器具等の汚れをまた、手 洗い教室においては手の 汚れを測定したが、客観 的に数値で汚れの度合い がわかるので大変好評で あった。	食中毒の予防策として、数値 で汚れを判断できることは 有効だったが、測定する本体 がモデルチェンジしたため 備品として本体を購入後 また同様の事業を実施でき ればと考えている。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	観光振興 班	副主幹 備前俊吾	0187-63- 5226	内陸線支援田んぼアート 制作事業	内陸線沿線の見所を創出 することにより同線の乗 車促進を図る。	402,000	委託	地元農家団体の協力を得 ながら、内陸線車窓から見 える場所にテーマ性のある 田んぼアートを製作した。 ・図柄 桃太郎 ・6/17田植え、10/9稲刈り	県、地元農 家団体	地元農 家、秋田 内陸線	平成26年4月1日	秋田内陸縦貫鉄道(株)か らの聞き取りでは「田んぼ アート目当てで乗車する 方が増えてきた(定着しつ つある)」との評価をいた だいている。	行政主導で実施しているが、 いずれは民間団体による 実施が望ましいと考えてい ることから、商工・観光団体 等と連携した取組を模索し ていく。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								
総務企画 部	貝田理	地域企画 課	企画振興 班	副主幹 小林一見	0187-63- 5114	仙北地域アダプト・プログ ラム推進事業	公共施設の維持管理に 地域住民等が担い手とし て参画する手段である「ア ダプト・プログラム」を推 進する。	238,344	直営	公共施設(道路等)を「里親」 として手入れする企業や団 体と協定を結び支援を行 った。 ・協定締結数 12 ・支援内容 看板製作、ゴミ 袋の提供、花苗等の提供等	県	管内企 業、自治 会等	平成26年4月1日	協定締結済みの団体では 構成員の公共施設に対す る意識が高まっている。ま た、新規の協定締結も増 加している。	対象とする公共施設が道路 と河川のみであることから 所管を建設部とする。
						平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年10月30日								